



7月の園だより

社会福祉法人 あいの里 さやま保育園
2025年 7月1日

- * *保育目標 照育 一おそだてー
- *ほとけさまや、周りの人たちにありがとうの感謝の気持ちを持つ。
- *体を十分使って、水遊びや夏のあそびを友だちと楽しむ。



【法話】

きょう お経

「きーみょーうむーりょーう
じゅによらいー
なーもーふーかーしーぎーこー」

例年より少し早い梅雨あけで、これからどんどん暑くなる予報です。熱中症や食中毒なども心配され、体調管理が難しい時期です。これからの夏の暑さに向けて、栄養・水分・睡眠時間がしっかりと整うよう心掛けたいものです。

保育園の礼拝では、「お正信偈」の最初の二句を歌にした「幼児のおつとめ」を、みんなで大きな声で、おつとめしています。

「経」って何でしょう？お経は亡くなった人のために読むとか、お経を読むと良いことがあると思っている人がいますが、そうではありません。事故に遭わなかったり、病気が治るわけでもありません。お経は、呪文でも、おまじないでもありません。お経は、お釈迦さまがお話をされたことを、あとに残すために、後の人たちが、文字を作り、文字にしてくださったものです。

お釈迦さまは、今から二千五百年の昔、老若男女、いろいろな人々に、たくさんのお話をされました。その仏さまのお話、真実の教えが説かれているのがお経なのです。生きている私のための教えが説かれているのですから、私が聞かせていただかなくては意味がありません。でも漢文に訳されたお経は難しいですから、私たちは「ご法話」を聴聞してお経のお心を聞かせていただきます。

お経を仏さま（阿弥陀如来さま）に向かって読むのは、仏徳讚嘆です。阿弥陀さまのお徳を讃嘆（ほめたたえ）させていただき、お経のお心をいただきましょう。

合 掌

今月の行事予定

- 7・22日 礼拝 8日 カレーパーティング（ほし組）
- 11日 通報・避難・消防訓練「火災」（消防署）
- 発育測定（14日 あひる・ひよこ 15日 うさぎ・りす
16日 ぞう・きりん）
- 17日 クッキー作り 18日 誕生会
- 23日 フラダンス 支給認定提出締め切り
- 25日 集金引落 22～28日特別保育申込み期間



小さな生き物からいただくもの

雨が降ったり暑すぎたり、中々外で思うように遊べませんが、こんな季節こそ、子どもたちは小さな生き物と友達になることが出来ます。

小さなカマキリの赤ちゃんやカタツムリの赤ちゃんを見つけたり、ダンゴムシが手のひらで丸くなかった姿を見て、「ねんねしたから、シーだよ。」とやさしく人差し指を唇につけたり、大人は見過ごしてしまいそうな瞬間を子どもたちは見つけてくれます。

ある日、トンボを園庭で捕まえました。羽が3枚しかなくて、少し元気のないトンボでした。でも捕まえたことが嬉しい、どうしても逃がすことができません。動きが弱くなってきても、手放せませんでした。お母さんがお迎えに来られて、ようやく逃すことができましたが、その時にはもう固くなって、ピクリとも動かなくなっていました。

それから数日後、広場で遊んだ時のことです。しつぽの切れたトカゲを捕まえている子に話しかけました。「逃がしてあげると、命があるから動かんくなるよ。優しくしてあげると、死んでしまうよ。」手にいっぱいダンゴムシを持っている小さな子にも優しい声で「小さな虫さんにも命があるよね、後で必ず逃がしてあげようね！」と、話してくれていました。

元気に飛んで逃げてくれるはずだったのに、ピクリとも動かなくなったトンボに対しての申し訳ない思い、辛い悲しい感情が心の中に芽生えたからこそ、感じることができた命の大切さ。自分の心で、本当に感じたからこそ、自分の言葉でお友達に伝えることもできました。小さな虫の命も、プランターで育てている野菜の命も、お友だちの命もわたしの命も、すべて平等で大切な命ということを、子どもたちは心で感じて、名前をつけたり、小さくても見つけ出したり、お話ししたり、見えない物も見えていて、大切にしてくれています。

